

「NP₁ ノ NP₂」における「初め」の意味解釈

九州大学文学部人文学科
言語学・応用言語学専攻
2011（平成 23）年入学
1LT11145E 丸尾ゆみ

2015（平成 27）年 1 月提出

要旨

「NP ノ NP」において、「初め」という名詞を用いた場合に、「初めの NP」か「NP の初め」かによって解釈が異なることに着目した。ノの前後が入れ替わることによる意味の変化だけでなく、用いることのできる NP に違いがあることから、解釈や使用される形式などで名詞を 5 つのグループに分類し、それぞれ例文を作り考察した。結果として、「時間幅の有無」と「NP が一つに限定されるか否か」という 2 つの基準によって「初めの NP」で用いられるか、「NP の初め」で用いられるか、もしくは両方で用いることができるか、が決められていることが分かった。また、「初めの NP」という一つの表現で、「初期」と「一番目」という 2 つの解釈が可能となる場合があるということも観察された。

目次

1. はじめに	1
2. 先行研究	2
3. 名詞による分類	3
3.1. NP の初めで使用できるもの	3
3.2. NP の初めで使用できないもの	4
4. A グループの NP	5
4.1. NP の初め	5
4.2. 初めの NP	9
5. B グループの NP	13
5.1. NP の初め	13
5.2. 初めの NP	14
6. C グループの NP	14
6.1. NP の初め	14
6.2. 初めの NP	16
7. D グループの NP	18
7.1. NP の初め	18
7.2. 初めの NP	20
8. E グループの NP	23
8.1. NP の初め	23
8.2. 初めの NP	24
9. 「初め」の言い換え	25
9.1. 「NP の初め」における置き換え	25
9.1.1. A グループ	25
9.1.2. C グループ	27
9.1.3. D グループ	29
9.1.4. E グループ	30
9.2. 「初めの NP」における置き換え	31
9.2.1. A グループ	31
9.2.2. B グループ	33
10. まとめ	34

1. はじめに

「初め」という名詞について『明鏡国語辞典 第二版』(2011)では、以下の4つの意味が述べられている。

- (1) 物事が始まったばかりの段階。最初。
- (2) 物事の起こり。起源。
- (3) 第一番目の物。多くの物のうち先の方のもの。
- (4) 多くの中で代表となるものを表す。

このうち、「NP の初め」では(1)が、「初めの NP」では(3)が主な解釈として考えられる。そこで「初めの NP」と「NP の初め」における「初め」の解釈には以下の二つがあると考えられる。

- (5) 独立した複数の NP を同時にならべ、順序で一番目にくる NP を指す。

[初めの NP] [2番目の NP] [3番目の NP]・・・

「初めの年」 → [初めの年] [2番目の年] [3番目の年]・・・

- (6) 単独の NP にズームインして、異時点間で比較し、初期部分を指す。

[(初め) NP (今)]

「年の初め」 → [(初め) 年]

- (5)の解釈を**順序解釈**、(6)の解釈を**時期の解釈**とする。

2. 先行研究

加藤 (1977:8) によると、「始め」「始まり」「始め」の名詞化の度合いが次のようにまとめられている。

- (7) 年が始まる。
- (8) 年が始まること (+e)
- (9) 年の始まり(+e)
- (10) 年の初め(-e)

加藤 (1977) では、コトを表す eventive 表現 (+e) とモノを表す non-eventive 表現(-e)とに着目し、(7)から(10)の順に名詞化の度合いが高くなると述べている。その中で「初めのNP」は「NPの初め」の名詞化がさらに進んだ表現だとしている。

次に、「NP₁のNP₂」の意味関係におけるタイプを、西山 (2001) は5つに分類しているが、そのうち「初めのNP」「NPの初め」が含まれるであろう3つを挙げる。

- (11) タイプ[A]: NP₁と関係Rを有するNP₂
 - a. 洋子の首飾り
 - b. 北海道の俳優
 - c. 隣の部屋の音

(12)タイプ[C]: 時間領域NP₁における、NP₂の指示対象の断片の固定

- a. 東京オリンピック当時の君
- b. 着物を着たときの洋子
- c. 大正末期の東京

(13)タイプ[D]: 非飽和名詞¹NP₂とパラメータの値NP₁

- a. この芝居の主演
- b. 第14回ショパン・コンクールの優勝者

¹ 「必ず『Xの』というパラメータを要求し、パラメータの値が定まらないかぎり、意味として完結しない」名詞のこと (西山, 2003: 33)

c. 太郎の上司

この中で「初めのNP」が所属するのはタイプAとタイプC、「NPの初め」が所属するのはタイプDだと考えられる。タイプDに関しては「初め」が非飽和名詞であるため、適切なパラメータの値が定まらない限り意味として完結せず、「NPの初め」で使用できない例があるというのも説明できる。しかし、「初めのNP」に関しては、A、Cのタイプで意味が成立しない例が述べられておらず、「初めの江戸時代」などの容認度の低さが十分に説明できない。そのほか、益岡・田窪 (1992:159) でもNP₁のNP₂に関する考察があるが、意味が成立しない場合についての記述がなされていない。

先行研究に対する疑問点として以下のようなものが挙げられる。

(14)「初めのNP」が単なる「NPの初め」の名詞化ならば、どのようなNPであっても両方の形式で使用できるはずだが、そうっていない。使い分けの基準はどういうものか。

(15)「初めのNP」において使用できないNPの特徴はどのようなものだろうか。

本論文では、用いられる形式や解釈が決まる基準を、NPを分類することで考察する。

3. 名詞による分類

3.1. NPの初めで使用できるもの

「NPの初め」では、解釈として必ず時期解釈をとる。「NPの初め」で用いることが出来るNPのうち、「初めのNP」でも用いることができるものをグループAとし、用いることができないものをグループBとする。

グループAの性質: 「NPの初め」では時期の解釈、「初めのNP」では順序の解釈が行われる。限定詞を加えない限り、一つの特定の物を指すとは限らない。

例: 年、月、日、手紙、トンネル、迷路、旅、物語、転成名詞 (動作動詞) など

グループBの性質: 「NPの初め」では時期の解釈をとる。「初めのNP」では用いることが出来ない。限定詞を付加せずに、その名詞だけでNPをひとつに特定できる。

例: 江戸時代、青函トンネル、今年、今月など

AB共通の性質として、初めから終わりまでに一定の時間を必要とするというものがある

る。また、その過程に中間地点が存在し、それは「NPの半ば」や「NPの途中」という表現で表される。

3.2. NPの初めで使用できないもの

NPの初めで使用できないものは、初めのNPでいずれかの解釈、もしくは両方の解釈をとる。どのような解釈の取り方をするかで分類すると、以下の3つに分けられる。

グループCの性質：初めのNPで順序の解釈・時期の解釈両方を取ることが出来る。NPが、大橋（1995:10）が主張するメンタル・スペース理論における「役割（Role）」の解釈を受けるときには順序の解釈をとる。そして「値（Value）」の解釈を受けるときには時期の解釈をとると考えられる。解釈としては、前者のほうが優位である。また、富浦 他（1995）で用いられている関係名詞句に類するものだとも考えられる。

例：お母さん、お兄さん、社長、課長、演出家、先輩、等

グループDの性質：初めのNPで時期の解釈を取る方がより自然である。限定詞がなくとも、単独の特定のものを指すことが出来る。

例：花子、田中先生、法隆寺、福岡県、人称代名詞、形容詞からの転成名詞など

グループEの性質：初めのNPで順序の解釈をとるほうがより自然である。限定詞がなければNPは特定されず、複数あるうちのひとつとして考えられる。時期の解釈を取ることが出来るが、その場合NPは特定の概念をもった集合体として扱われる。

例：自動車、俳優、パンダ、椅子、机、鉛筆など

CDEに共通する性質として、初めから終わりまでにかかる一定時間を考慮することが想定されず、「NPの半ば」や「NPの途中」で中間地点を示すことができないという点である。AからEまでを総合して考えると以下のような共通点が見いだせる。

AとB（NPの初め）：始期から終期までに一定の時間が必要とされる。「NPの半ば」や「NPの途中」で中間地点が表せる。

BとCとD（時期の解釈）：（Cが特定物を指すと考えた場合）その名詞を使うだけで、限定詞がなくとも特定の事物を示すことができる。

AとCとE（順序の解釈）：（Cが特定物を指さないと考えた場合）限定詞がなければ、特定の事物を示すことができない。

4. AグループのNP

AグループのNPは、「NPの初め」「初めのNP」両方で使用できる。Aグループには動詞からの転成名詞も含まれる。動詞からの転成名詞は、限界性のない動詞のみ「NPの初め」「初めのNP」ともに用いることが出来る。解釈は、前者が時期解釈、後者が順序解釈である。動詞における限界性の定義については、須田（2000:87）の述べる、「そこにいたれば、動作の展開の過程がつきはて、それ以上展開することのできないような、動作の臨界点」というものを用いている。

4.1. NPの初め

「NPの初め」では、Aグループの名詞は時期の解釈をとる。

(16) 年の初めは顔合わせをする。

(解釈) a. 年の初期に顔合わせをする。

b. *一年目に顔合わせをする。

年の半ばに一度書類を提出してもらう。

(17) 月の初めは会議を行いたい。

(解釈) a. 月の上旬に会議を行いたい。

b. *一月目に会議を行いたい。

月の半ばは作業が滞りやすい。

(18) *(一)日の初めはみんなでラジオ体操を行った。

(解釈) a. 一日の初期にはみんなでラジオ体操を行った。

b. *一日目にみんなでラジオ体操を行った。

もう一日の半ばに差し掛かっている。

(19) **手紙**の初めに彼の名前を記していた。

- (解釈) a. 手紙の冒頭に彼の名前を記していた。
b. *一通目の手紙に彼の名前を記していた。

手紙の半ばで字が急に乱れだした。

(20) **トンネル**の初めは幽霊がでるとい噂がある。

- (解釈) a. あるトンネルの入り口付近には幽霊がでるとい噂がある。
b. *一つ目のトンネルには幽霊が出るとい噂がある。

トンネルの半ばで車が止まってしまった。

(21) **試合**の初めはいい戦いっぷりを見せた。

- (解釈) a. 試合の序盤はいい戦いっぷりを見せた。
b. *一試合目はいい戦いっぷりを見せた。

試合の半ばに他の選手とぶつかってしまった。

(22) **曲**の初めはテンポが速かった。

- (解釈) a. ある曲は、序盤のテンポが速かった。
b. *一曲目はテンポが速かった。

曲の半ばでテンポが大きく変わった。

(23) **論文**の初めではこの主張を引用していた。

- (解釈) a. ある論文の冒頭にこの主張を引用していた。
b. *一番目の論文にこの主張を引用していた。

論文の半ばで論点が少しずれてしまった。

(24) **迷路**の初めで友人とはぐれてしまった。

- (解釈) a. 迷路の入り口付近で友人とはぐれてしまった。
b. *一つ目の迷路で友人とはぐれてしまった。

迷路の半ばで友人とはぐれてしまった。

(25) **コピー用紙**の初めに名前を書いてください。

- (解釈) a. コピー用紙の上部に名前を書いてください。
b. *一枚目のコピー用紙に名前を書いてください。

コピー用紙の半ばに折り目を付ける。

限界性のない動詞からの転成名詞

(26) **走り**の初めは非常に良かった。

- (解釈) a. 一回の走りのうち、初期の走りが非常に良かった。
b. *何回か走ったうちで、一回目の走りが非常に良かった。

走りの途中で足が吊って棄権した。

(27) **泳ぎ**の初めは勢いがあった。

- (解釈) a. 一回のおよぎのうち、初期の泳ぎは勢いがあった。

- b. *何回か泳いだうち、一番目の泳ぎは勢いがあった。

泳ぎの途中で体を休めることが必要だ。

- (28) 暮らしの初めは貧しかった。

(解釈) a. 一つの暮らしの中で、初期の暮らしは貧しかった。

- b. *いくつかの暮らしの中で、一番目に見た暮らしは貧しかった。

暮らしの途中で車を購入した。

- (29) 働きの初めはいいものとは言えなかった。

(解釈) a. 一回の働きのうち、初期の働きのいいものとは言えなかった。

- b. *何回かの働きのうち、一回目の働きのいいものとは言えなかった。

微生物の働きの途中で熱が発生する。

- (30) 動きの初めは機敏だった。

(解釈) a. 一つの動きの中で、動きだしは機敏だった。

- b. *いくつかの動きの中で、一番目の動きは機敏だった。

動きの途中をカメラで捉えるのは難しい。

- (31) 騒ぎの初めはまだ小規模なものだった。

(解釈) a. ひとつの騒ぎの中で、初期の騒ぎはまだ小規模なものだった。

- b. *いくつかの騒ぎの中で、一番目の騒ぎは小規模なものだった。

騒ぎの途中から撮影したので、犯人は分からなかった。

- (32) 流れの初めはスピードがゆるやかだ。

(解釈) a. ある川の流れは、初期の流れはまだゆるやかである。

- b. *いくつか川の流れがある中で、一番目に見た流れはゆるやかだ。

流れの途中で水嵩が変わることはない。

限界性のある動詞からの転成名詞

- (33) *死にの初め

- (34) *落ちの初め

- (35) *消えの初め

- (36) *壊れの初め

- (37) *焦げの初め

- (38) *作りの初め

- (39) *掘りの初め

- (40) *建ての初め

4.2. 初めの NP

「初めの NP」では、A グループの NP は順序の解釈をとる。

- (41) 初めの年は顔合わせをする。

(解釈) a. 複数ある年のうち、一年目には顔合わせをする。

b. *年の初期に顔合わせをする。

(42) 初めの**月**は会議を行いたい。

(解釈) a. 複数ある月のうち、一月目に会議を行いたい。

b. *月の初期に会議を行いたい。

(43) 初めの**日**はみんなでラジオ体操を行っている。

(解釈) a. 複数ある日数のうち、一日目にみんなでラジオ体操を行っている。

b. *1日の初期にラジオ体操を行っている。

(44) 初めの**手紙**に彼の名前を記していた。

(解釈) a. 一通目の手紙に彼の名前を記していた。

b. *手紙の冒頭に彼の名前を記していた。

(45) 初めの**トンネル**は幽霊がでるといふ噂がある。

(解釈) a. いくつかトンネルを通ったうち、一番目に通ったトンネルは幽霊の噂がある。

b. *トンネルの入り口付近で幽霊が出るという噂がある。

(46) 初めの**試合**ではいい戦いっぷりを見せた。

(解釈) a. いくつか試合をしたが、一番目の試合ではいい戦いっぷりを見せた。

b. *試合の序盤ではいい戦いっぷりを見せた。

(47) 初めの**曲**はテンポが速かった。

(解釈) a. いくつか曲がかかったが、一曲目はテンポが速かった。

b. *曲の出だしはテンポが速かった。

(48) 初めの**論文**ではこの主張を引用していた。

(解釈) a. いくつか論文を書いたうち、一番初めに書いた論文ではこの主張を引用していた。

b. *論文の冒頭でこの主張を引用していた。

(49) 初めの**迷路**で友人とはぐれてしまった。

(解釈) a. いくつか迷路に挑戦したうち、一番目の迷路ではぐれてしまった。

b. *迷路の入り口付近で友人とはぐれてしまった。

(50) 初めの**コピー用紙**に名前を書いてください。

(解釈) a. 何枚かあるうちの一枚目のコピー用紙に名前を書いてください。

b. *コピー用紙の上部に名前を書いてください。

限界性のない動詞からの転成名詞

(51) 初めの**走り**は非常に良かった。

(解釈) a. 何回か走って、一番目の走りが非常に良かった。

b. *一回の走りの中で、初期の走りが非常に良かった。

(52) 初めの**泳ぎ**は勢いがあった。

(解釈) a. 何回か泳いで、一番目の泳ぎは勢いがあった。

b. *一回の泳ぎの中で、初期の泳ぎは勢いがあった。

(53) 初めの暮らしは貧しかった。

- (解釈) a. いくつか暮らしがあり、一番目の暮らしは貧しかった。
- b. *一つの暮らしの中で、初期の暮らしは貧しかった。

(54) 初めの働きはいいものとは言えなかった。

- (解釈) a. 何回か働きぶりが変わり、その一番目の働きは良くなかった。
- b. *一回の働きの中で、初期の働きは良くなかった。

(55) 初めの動きは機敏だった。

- (解釈) a. いくつか動きがあり、一番目の動きは機敏だった。
- *b. 一つの動きの中で、初期の動きは機敏だった。

限界性のある動詞からの転成名詞

(56) *初めの死に

(57) *初めの落ち

(58) *初めの消え

(59) *初めの壊れ

(60) *初めの焦げ

(61) *初めの作り

(62) *初めの掘り

(63) *初めの建て

5. BグループのNP

BグループのNPは、「NPの初め」でのみ使用することが出来る。

5.1. NPの初め

Bグループの名詞は、「NPの初め」で時期の解釈をとる。

(64) 江戸時代の初めはよく飢饉が起こっていた。

- (解釈) a. 江戸時代の初期にはよく飢饉が起こっていた。
- b. *一回目の江戸時代にはよく飢饉が起こっていた。

江戸時代の半ばに西洋から入ってきたお菓子である。

(65) 青函トンネルの初めで車が止まってしまった。

- (解釈) a. 青函トンネルの入り口付近で車が止まってしまった。
- b. *一つ目の青函トンネルで車が止まってしまった。

青函トンネルの半ばで車が止まってしまった。

(66) 今年の初めに退院することができた。

- (解釈) a. 今年の初期に退院することができた。
- b. *一番目の今年に退院することができた。

今年の半ばに大規模な工事が予定されている。

(67) 今月の初めに重大発表があると聞いていた。

- (解釈) a. 今月の初期に重大発表があると聞いていた。

- b. *一番目の今月に重大発表があると聞いていた。

今月の半ばに海外出張が入っている。

5.2. 初めの NP

初めの NP では、B グループの NP は使うことが出来ない。B グループに含まれる NP は、複数あることが想定できないものであるため、順序の解釈が難しい。また、時期の解釈は「NP の初め」で可能であるため、結果として「初めの NP」では使えないと考えられる。

(68) *初めの江戸時代はよく飢饉が起こっていた。

(69) *初めの青函トンネルで車が止まってしまった。

(70) *初めの今年に退院することが出来た。

(71) *初めの今月に重大発表があると聞いていた。

6. C グループの NP

6.1. NP の初め

「NP の初め」では C グループの NP は使うことが出来ない。C グループの NP は「NP の半ば」で中間地点を示すことができず、時間幅を持たないと考えられる。そのため「NP の初め」では使うことが出来ない。

(72) *お母さんの初めに花束を渡してきて。

*お母さんの半ば

(73) *母の初めは今よりもっと穏やかな人だった。

*母の半ば

(74) *兄ちゃんの初めは料理が得意だった。

*兄ちゃんの半ば

(75) *兄の初めは一番背が高い。

*兄の半ば

(76) *先生の初めは優しい人だった。

*先生の半ば

(77) 課長の初めは仕事ができる人だった。

*課長の半ば

(78) *社長の初めは先進的な考えを持っていた。

*社長の半ば

(79) *先輩の初めは厳しい人だった。

*先輩の半ば

(80) *生徒の初めは真面目だった。

*生徒の半ば

(81) *支店の初めは繁盛していた。

*支店の半ば

(82) *担当医の初めはもっと手馴れていた。

*担当医の半ば

(83) *お客さんの初めは太っ腹だった。

*お客さんの半ば

(84) *奥さんの初めはかなりの美人だった。

*奥さんの半ば

6.2. 初めの NP

NP の初めにおいて、C グループの NP は時期・順序の両解釈が可能である。「NP の初め」で使うことが出来ないため、両方の解釈が「初めの NP」で担われていると考えられる。ただし、NP が一つに確定できる特殊な条件下でのみ時期の解釈ができるため、順序の解釈のほうが優位であると考えられる。

(85) 初めのお母さんは美味しいお弁当をつくってくれた。

(解釈) a. 数人いたお母さんのうち、一番目のお母さんは美味しいお弁当を作ってくれた。

b. 初めの頃のお母さんは今より美味しいお弁当を作ってくれた。

(86) 初めのお兄ちゃんは料理が得意だった。

(解釈) a. 何人か兄がいるうち、一番上の兄は料理が得意だった。

b. 初めの頃の兄 (1人) は、今より料理が得意だった。

(87) 初めの先生は優しい人だった。

(解釈) a. 数人出会った先生のうち、一番目に会った先生は優しい人だった。

b. 私がお世話になった期間中で、初期の先生は今より優しい人だった。

(88) 初めの課長は仕事ができる人だった。

(解釈) a. 何人か課長がいて、最初に話題にした課長は仕事ができる人だった。

b. 私が知っている限りで初期の課長は今より仕事ができる人だった。

(89) 初めの社長は奇抜な考えを持っていた。

(解釈) a. 何人か話した社長のうち、1人目の社長は奇抜な考えを持っていた。

b. 私が知っている限りで、初期の社長は今より奇抜な考えを持っていた。

(90) 初めの先輩は厳しい人だった。

(解釈) a. 何人かいるうちの一番目の先輩は厳しい人だった。

b. 私が知っている限りで、初期の先輩は今より厳しい人だった。

(91) 初めの生徒は真面目だった。

(解釈) a. 何人か面接したうち、一番目の生徒は真面目だった。

b. 私が受け持った初期の生徒たちは今の生徒たちより真面目だった。

(92) 初めの支店は繁盛していた。

(解釈) a. 何店かあるうちで、一店目に見た支店は繁盛していた。

b. 私が知っている限りで初期のあの支店は今より繁盛していた。

(93) 初めの担当医はもっと手馴れていた。

(解釈) a. 何人か担当医はいるが、一番目に来た担当医はもっと手馴れていた。

b. 私が知っている限りで初期の担当医というものは今よりもっと手馴れていた。

(94) 初めの**お客さん**は太っ腹だった。

(解釈) a .何人かいたお客さんのうち、一番目のお客さんは太っ腹だった。

b. 私が知っている限りで初期のお客さんというものは今より太っ腹だった。

(95) 初めの**奥さん**はかなりの美人だった。

(解釈) a. 何人か会った奥さん達のうち、一番目に会った奥さんはかなりの美人だった。

b. 初期に会ったころの奥さんは今より美人だった。

7. D グループの NP

D グループの NP には、固有名詞と人称代名詞、形容詞からの転成名詞が含まれる。

7.1. NP の初め

D グループの NP は、「NP の初め」では使うことが出来ない。「NP の半ば」で中間地点を表すことができず、時間幅を持たないためだと考えられる。

(96) ***花子**の初めは礼儀正しい少女だった。

*花子の半ば

(97) ***田中先生**の初めは口調が穏やかだった。

*田中先生の半ば

(98) ***井の頭公園**の初めでボートに乗った。

*井の頭公園の半ば

(99) ***清見寺**の初めは観光客でにぎわっていた。

*清見寺の半ば

(100) ***私**の初めは器用ではなかった。

*私の半ば

(101) ***あなた**の初めはおとなしかった。

*あなたの半ば

(102) ***彼**の初めはよく散歩に出かけていたよ。

*彼の半ば

D グループで「NP の初め」はほとんど使用できないが、起源の意味で用いられる例もある。

(103) **清見寺**の初めについて勉強した。

(解釈) 清見寺の起源について勉強した。

(104) **仏教**の初めについてこの本にまとめられている。

(解釈) 仏教の起源がこの本にまとめられている。

形容詞からの転成名詞

(105) ***赤さ**の初めのほうが好きだ。

*赤さの半ば

(106) ***柔らかさ**の初めをお願いしたい。

*柔らかさの半ば

(107) ***速さ**の初めで突っ込んだら危なかった。

*速さの半ば

(108) ***嬉しさ**の初めが嘘のように消えていった。

*嬉しさの半ば

(109) ***恥ずかしさ**の初めはもう感じない。

*恥ずかしさの半ば

7.2. 初めの NP

D グループの NP は、「初めの NP」では時期解釈をとる。これは、NP が複数存在することが想定しづらく、一つに限定されてしまうためだと考えられる。「初めの NP」では基本的に順序解釈をとるが、それが不可能な場合は時間幅が与えられ、時期解釈がされるようになると考えられる。

形容詞からの転成名詞では、属性形容詞は「初めの NP」のみが容認できる。感情形容詞では「初めの NP」は NP が独立して複数あるという解釈のもとでは容認度が下がる。

(110) 初めの**花子**は礼儀正しい少女だった。

(解釈) a. 私が知っている限りで初期の花子は今より礼儀正しい少女だった。

b. *何人かいるうちで、一番目に接した花子は礼儀正しい少女だった。

(111) 初めの**田中先生**は口調が穏やかだった。

(解釈) a. 私が知っている限りで初期の田中先生は今より口調が穏やかだった。

b. *何人かいる田中先生のうち、一番目に話した田中先生は口調が穏やかだった。

(112) 初めの**清見寺**は観光客でにぎわっていた。

(解釈) a. 私が知っている限りで初期の清見寺は今より観光客でにぎわっていた。

b. *いくつかある清見寺のうち、一番目に行った清見寺は観光客でにぎわっていた。

(113) 初めの**井の頭公園**はもっと人が多かった。

(解釈) a. 私が知っている限りで初期の井の頭公園は今よりもっと人が多かった。

b. *いくつかある井の頭公園のうち、一番目に行った井の頭公園はもっと人が多かった。

(114) 初めの**私**は器用ではなかった。

(解釈) a. 私が知っている限りで初期の私は今より器用ではなかった。

b. *何人かいる私のうち、一番目に出てくる私は器用ではなかった。

(115) 初めの**あなた**はおとなしかった。

(解釈) a. 私が知っている限りで初期のあなたはおとなしかった。

b. *何人かいるあなたのうち、一番目に並んでいたあなたはおとなしかった。

(116) 初めの**彼（彼女）**はよく散歩に出かけていたよ。

- (解釈) a. 私が知っている限りで初期の彼(彼女)はよく散歩に出かけていた。
- b. *何人かいる彼(彼女)のうち、一番目に話題に上った彼(彼女)はよく散歩に出かけていた。

形容詞からの転成名詞

(117) 初めの**赤さ**のほうが好きだ。

- (解釈) a. 一つの赤さがだんだんと変化していくが、その初期の赤さが好きだ。
- b. ?いくつか赤い物が存在するうち、一番目に出されたものの赤さが好きだ。

(118) 初めの**柔らかさ**でお願いしたい。

- (解釈) a. 一つの柔らかさが徐々に変化していくが、初期の柔らかさを好む。
- b. ?解釈：いくつかの柔らかさがあるが、一番目に出されたものの柔らかさを好む。

(119) 初めの**速さ**で突っ込んだら危なかった。

- (解釈) a. 一つの速さが徐々に変化していく中で、初期の速さで突っ込んだら危なかった。
- b. ?いくつかか速度を選べる中で、一番目に選んだ速さで突っ込んだら危なかった。

(120) 初めの**嬉しさ**が嘘のように消えていった。

- (解釈) a. ひとつの嬉しさが初期の頃と比べて減り、消えていった。
- b. *いくつか嬉しいことがあり、そのうち一番目に感じた嬉しさが消えていった。

(121) 初めの**恥ずかしさ**はもう感じない。

- (解釈) a. ひとつの恥ずかしさが、初期の頃と比べて減り、今はもう感じない。
- b. *いくつか恥ずかしいことがあったが、そのうち一番目に感じた恥ずかしさはもう感じない。

8. E グループの NP

8.1. NP の初め

E グループの NP は、「NP の初め」では使えない。「NP の半ば」で中間地点を表すことが出来ず、時間幅を持たないからだと考えられる。

(122) ***自動車**の初めは赤い色だった。

*自動車の半ば

(123) ***俳優**の初めはよく舞台に出ていた。

*俳優の半ば

(124) ***パンダ**の初めはあの植物を食べていた。

*パンダの半ば

(125) ***椅子**の初めは金属で作られていた。

*椅子の半ば

(126) ***机**の初めは丸い形をしていた。

*机の半ば

(127) *ぬいぐるみの初めは熊を模したものだだった。

*ぬいぐるみの半ば

8.2. 初めの NP

E グループの NP は、「初めの NP」では順序解釈をとる。これは、E グループに属する NP が、限定詞などが付かない限り一つに限定されないため、複数あるうちから一つ取り上げて話題にする、という解釈の方が優位にくるためだと考えられる。時期解釈も可能であるが、その場合には、同様の概念を持つ NP が集団として一つに限定されるという解釈になる。

(128) 初めの自動車は赤い色だった。

(解釈) ?a. 自動車が開発された初期の色は赤だけだった。

b. 一番目に通った自動車の色は赤だった。

(129) 初めのパンダはあの植物を食べた。

(解釈) ?a. 地球上に現れた初期のパンダはあの植物を食べた。

b. 何頭かいるうちの、一番目にやってきたパンダはあの植物を食べた。

(130) 初めの俳優はよく舞台をやっていた。

(解釈) ?a. 俳優という職業ができた初期の俳優はよく舞台をやっていた。

b. 一番目に登場した俳優はよく舞台をやっていた。

(131) 初めの椅子は金属でつくられていた。

(解釈) ?a. 発明された当時の椅子というのは、全て金属製だった。

b. いくつか並べられたうち、一番目においてある椅子は金属製だった。

(132) 初めの机は丸い形をしていた。

(解釈) ?a. 発明された当時の机というのは、全て丸い形をしていた。

b. いくつか出してもらったうち、一番目に出してもらった机は丸い形だった。

(133) 初めのぬいぐるみは熊を模したものだだった。

(解釈) ?a. 発明された当時のぬいぐるみというのは熊の形をしていた。

b. いくつかぬいぐるみをもらったうち、一番目のぬいぐるみは熊だった。

9. 「初め」の言い換え

「初め」を別の表現に置き換えることで、「NP の初め」と「初めの NP」の示す内容が同じになるかどうかを考察する。

9.1. 「NP の初め」における置き換え

9.1.1. A グループ

A グループの名詞は「NP の初め」で時期解釈をする。これを順序解釈できるように「初め」を言い換え、「初めの NP」と同様の解釈ができるようにする。基本的には序数詞での言い換えが有効である。ただし、年、月、日などの直接時間を表すような名詞の場合、やや容認度が下がる傾向がある。

(134) a. 初めの年に顔合わせをする。

b. 年の初めに顔合わせをする。

→ ?年の一年目に顔合わせをする。

[年の一年目] [年の2年目]・・・

(135) a. 初めの**手紙**に彼の名前を記していた。

b. **手紙**の初めに彼の名前を記していた。

→ 手紙の一通目に彼の名前を記していた。

[手紙の一通目] [手紙の二通目]・・・

(136) a. 初めの**トンネル**は幽霊がでるとい噂がある。

b. **トンネル**の初めは幽霊がでるとい噂がある。

→ **トンネル**の一本目は幽霊がでるとい噂がある。

[トンネルの1本目] [トンネルの2本目]・・・

(137) a. 初めの**試合**はいい戦いっぷりを見せた。

b. **試合**の初めはいい戦いっぷりを見せた。

→ 試合の一戦目はいい戦いっぷりを見せた。

[試合の1戦目] [試合の2戦目]・・・

(138) a. 初めの**論文**ではこの主張を引用していた。

b. **論文**の初めではこの主張を引用していた。

→ 論文の一本目ではこの主張を引用していた。

[論文の一本目] [論文の2本目]・・・

(139) a. 初めの**コピー用紙**に名前を書いてください。

b. **コピー用紙**の初めに名前を書いてください。

→ コピー用紙の一枚目に名前を書いてください。

[コピー用紙の一枚目] [コピー用紙の二枚目]・・・

9.1.2. C グループ

Cグループの名詞を使った場合、「NPの初め」では容認度が低い。序数詞を使って「初め」を置き換えることで、「NPの初め」が順序解釈できるようになり「初めのNP」と同様の意味を持つことが出来る。

(140) a. 初めの**お母さん**は優しい人だった。

b. ***お母さん**の初めは優しい人だった。

→ お母さんの1人目は優しい人だった。

[お母さんの1人目] [お母さんの2人目]・・・

(141) a. 初めの**先生**は穏やかな人だった。

b. ***先生**の初めは穏やかな人だった。

→ 先生の1人目は穏やかな人だった。

[先生の1人目] [先生の2人目]・・・

(142) a. 初めの**社長**は先進的な考えを持っていた。

b. ***社長**の初めは先進的な考えを持っていた。

→ 社長の1人目は先進的な考えを持っていた。

[社長の1人目] [社長の2人目]・・・

- (143) a. 初めの**先輩**は厳しい人だった。
 b. ***先輩**の初めは厳しい人だった。
 → 先輩の1人目は厳しい人だった。

[先輩の1人目] [先輩の2人目]・・・

- (144) a. 面接に来たうち、初めの**生徒**は真面目だった。
 b. ***生徒**の初めは真面目だった。
 → 生徒の1人目は真面目だった。

[生徒の1人目] [生徒の2人目]・・・

- (145) a. 初めの**担当医**はもっと手馴れていた。
 b. ***担当医**の初めはもっと手馴れていた。
 → 担当医の1人目はもっと手馴れていた。

[担当医の1人目] [担当医の2人目]・・・

- (146) a. 初めの**お客さん**は太っ腹だった。
 b. ***お客さん**の初めは太っ腹だった。
 → お客さんの1人目は太っ腹だった。

[お客さんの1人目] [お客さんの2人目]・・・

9.1.3. D グループ

D グループに属する名詞は、「NPの初め」では容認度が低い。「初めのNP」では時期の解釈をとるため、「初め」を「初期」や「初めの頃」で置き換えたが容認度は低い。

- (147) a. 初めの花子はおとなしい娘だった。
 b. *花子の初めはおとなしい娘だった。
 → ?花子の初めの頃はおとなしい娘だった。

[(おとなしい) 花子]

- (148) a. 初めの清見寺はもっと人が多く訪れていた。
 b. *清見寺の初めはもっと人が多く訪れていた。
 → ?清見寺の初めの頃はもっと人が多く訪れていた。

[(人が多い) 清見寺]

- (149) a. 初めのあなたはおとなしかった。
 b. *あなたの初めはおとなしかった。
 → ?あなたの初めの頃はおとなしかった。

[(おとなしい) あなた]

- (150) a. 初めの赤さが好きだった。
 b. *赤さの初めが好きだった。
 → *赤さの初めの頃が好きだった。

[(好き) 赤さ]

- (151) a. 初めの嬉しさがあつという間に消えていった。
 b. *嬉しさの初めがあつという間に消えていった。
 → *嬉しさの初めの頃があつという間に消えていった。

[(消えていった) 嬉しさ]

9.1.4. E グループ

E グループに属する名詞は、本来「NP の初め」では容認度が低いが、序数詞を使うことで順序解釈をする「初めの NP」に近づき、容認度が上がる。

- (152) a. 初めの自動車は赤い色だった。
 b. ?自動車の初めは赤い色だった。
 → 自動車の 1 台目は赤い色だった。

[自動車の 1 台目] [自動車の 2 台目] . . .

- (153) a. 初めのシマウマはあの植物を食べた。
 b. *シマウマの初めはあの植物を食べた。
 → シマウマの 1 頭目はあの植物を食べた。

[シマウマの 1 頭目] [シマウマの 2 頭目] . . .

- (154) a. 初めの俳優はよく舞台をやっていた。
 b. *俳優の初めはよく舞台をやっていた。
 → 俳優の 1 人目はよく舞台をやっていた。

[俳優の 1 人目] [俳優の 2 人目] . . .

- (155) a. 初めの椅子は金属製だった。
 b. *椅子の初めは金属製だった。
 → 椅子の一脚目は金属製だった。

[椅子の一脚目] [椅子の二脚目] . . .

- (156) a. 初めのぬいぐるみは熊の形をしていた。
 b. ぬいぐるみの初めは熊の形をしていた。
 → ぬいぐるみの一つ目は熊の形をしていた。

[ぬいぐるみの一つ目] [ぬいぐるみの二つ目] . . .

9.2. 「初めの NP」における置き換え

順序解釈をとる「初めの NP」における「初め」を「初期」で置き換えると、時期解釈に意味が近づくのではないか。

9.2.1. A グループ

A グループの名詞で順序解釈をするのは「初めの NP」である。この「初め」を「初期」で置き換えたが、「NP の初め」で得られる意味とは異なる時期解釈をすることとなった。

- (157) a. 年の初めに顔合わせをする
 b. 初めの年に顔合わせをする
 → ?初期の年に顔合わせをする

[(初期・顔合わせ) 数年]

- (158) a. 手紙の初めに彼の名前を書いた。

b. 初めの**手紙**に彼の名前を書いた。

→ ?初期の手紙に彼の名前を書いた。

[(初期・名前) 数通の手紙]

(159) a. **トンネル**の初めには幽霊が出るという噂がある。

b. 初めの**トンネル**には幽霊が出るという噂がある。

→ ?初期のトンネルには幽霊が出るという噂がある。

[(初期・幽霊) 数本のトンネル]

(160) a. **試合**の初めは接戦だった。

b. 初めの**試合**は接戦だった。

→ ?初期の試合は接戦だった。

[(初期・接戦) 数試合]

(161) a. **論文**の初めにこの主張を引用した。

b. 初めの**論文**にこの主張を引用した。

→ ?初期の論文にこの主張を引用した。

[(初期・主張) 複数の論文]

(162) a. 初めの**コピー用紙**に名前を書いてください。

b. **コピー用紙**の初めに名前を書いてください。

→ ?初期のコピー用紙に名前を書いてください。

[(名前) コピー用紙]

9.2.2. B グループ

B グループの NP を用いたとき容認度が低くなる「初めの NP」の「初め」を「初期」に置き換えたが、容認度が上がるものと上がらないものがあった。

(163) a. **江戸時代**の初めはよく飢饉が起こった。

b. *初めの**江戸時代**はよく飢饉が起こった。

→ 初期の江戸時代はよく飢饉が起こった。

[(飢饉) 江戸時代]

(164) a. **青函トンネル**の初めに車が止まっていた。

b. *初めの**青函トンネル**に車が止まっていた。

→ ?初期の青函トンネルに車が止まっていた。

[(停車) 青函トンネル]

10. まとめ

本論文での主張は以下のとおりである。

- (165) NP が時間幅をもつときは「NP の初め」で使用できるが、持たない時には使用できない。解釈は一つの物の初期部分を表す時期解釈である。
- (166) NP が一つに限定されないときは「初めの NP」で使用できるが、限定されるときは使用できない。解釈はいくつかある物のうち、一番目を表す順序解釈である。
- (167) NP が時間幅を持たず、かつ限定されるものである場合は、新たに時間幅が与えられ、「初めの NP」の形式であっても使用できる。解釈は時期解釈である。
- (168) 限界動詞の転成名詞は「初めの NP」「NP の初め」のどちらでも使えない。
NP₁ / NP₂ における「初め」は N の前後どちらに来るかで「一番目」と「初期」という 2 つの意味がある。それが「初めの NP」と「NP の初め」の順序解釈と時期解釈の違いにつながる。「初め」を「一番目」もしくは「初期」に近い名詞に置き換え、どちらかに解釈を寄せたとき、順序解釈を時期解釈にすることは難しいが、は時期解釈を順序解釈にすることは可能である。このことから、「初め」が持つ意味は「初期」の意味の方が強いのではないかと推察される。本論で述べた C、D グループが「初めの NP」において時期解釈をとる、という点についても「初期」の意味が強いことが関わっているのではないかと考える。

謝辞

卒論執筆にあたり、指導教官の上山あゆみ先生には、テーマ決めの段階から多くの貴重な助言とご指導を頂きました。サヴァティカル中にもかかわらず時間を割いて頂いたことに心から感謝いたします。また、九州大学言語学研究室の張農迪さん、陳陸琴さんには様々な観点から助言を頂き、粘り強く相談に乗っていただきました。本当にありがとうございました。

参考文献

- 大橋浩 (1995) 「メンタル・スペースにおける談話指示物：非特定の不定名詞句への照応の場合」『産業医科大学雑誌』 17: 287-298
- 加藤主税 (1977) 「2種の『はじめ』について：日英語比較研究」『Osaka Literary Review』 16: 1-10
- 北原保雄 (編) (2011) 『明鏡国語辞典』. 第2版, 東京: 大修館書店
- 須田義治 (2000) 「限界性について—限界動詞と無限界動詞—」『山梨大学教育人間科学部紀要』 1(2):87-94.
- 富浦洋一・中村 貞吾・日高 達 (1995) 「名詞句「NP の NP」の意味構造」『情報処理学会論文誌』 36(6): 1441-1448
- 西山佑司 (2003) 『日本語名詞句の意味論と語用論』, 日本語研究叢書第2巻. 東京: ひつじ書房
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法』. 改訂版, 東京: くろしお出版